

広 報

家畜衛生ますだ

令和5年2月

発行・編集 益田家畜保健衛生所（西部農林水産振興センター益田家畜衛生部）

〒698-0007 益田市昭和町13-1 益田合同庁舎1階

TEL 0856-31-9730 FAX 0856-31-9739

高病原性鳥インフルエンザ過去最多を更新

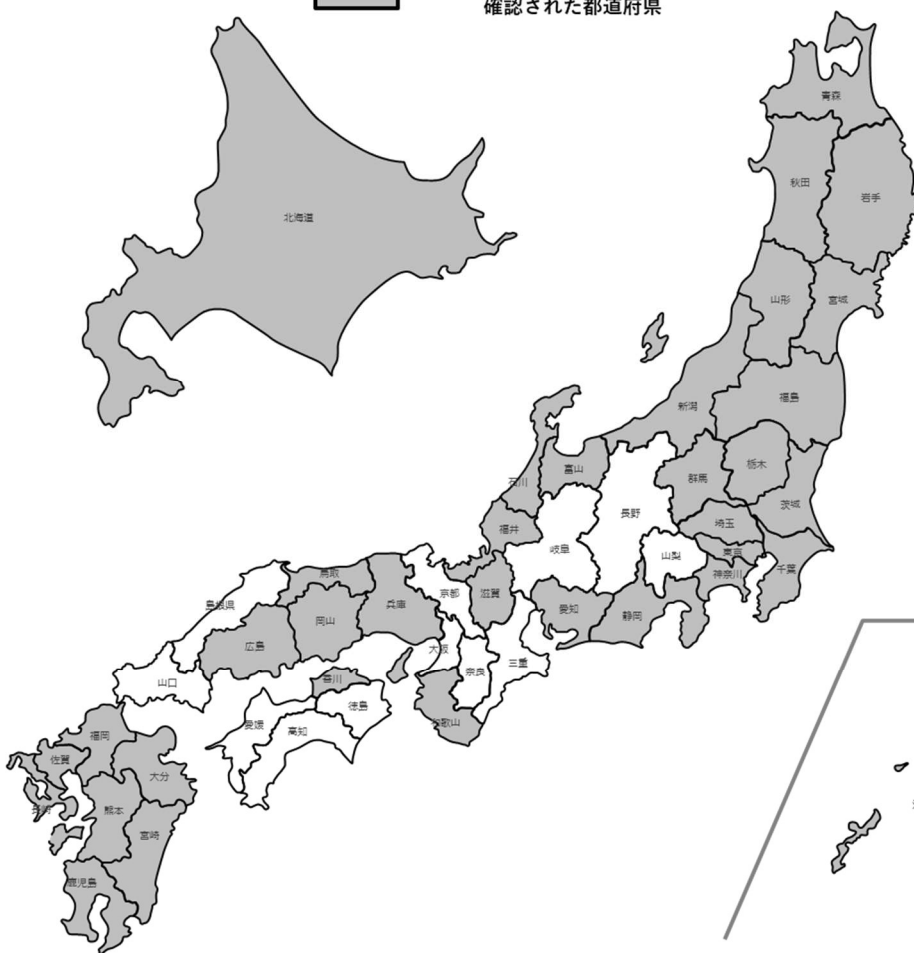
今シーズン、全国各地で発生が相次いでいる高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）。令和5年2月20日現在、養鶏場・飼養鳥での発生は26都道県で85事例確認されており、殺処分羽数の合計は約1478万羽と、事例数・殺処分羽数ともに過去最多を大きく更新しました。昨シーズンの様子を見ていると、春になってからも油断できない時期が続きます。家きん飼養者の皆様には、今しばらく緊張感を保っていただき、改めて飼養衛生管理基準の遵守徹底をお願いいたします。

養鶏場等及び野鳥における

高病原性鳥インフルエンザウイルス検出状況

（令和5年2月20日現在）

...養鶏場等及び野鳥で
確認された都道府県



養鶏場及び飼養鳥

26都道県 85事例 約1478万羽



野鳥

27道県 192事例

野生イノシシにおける豚熱の発生状況について

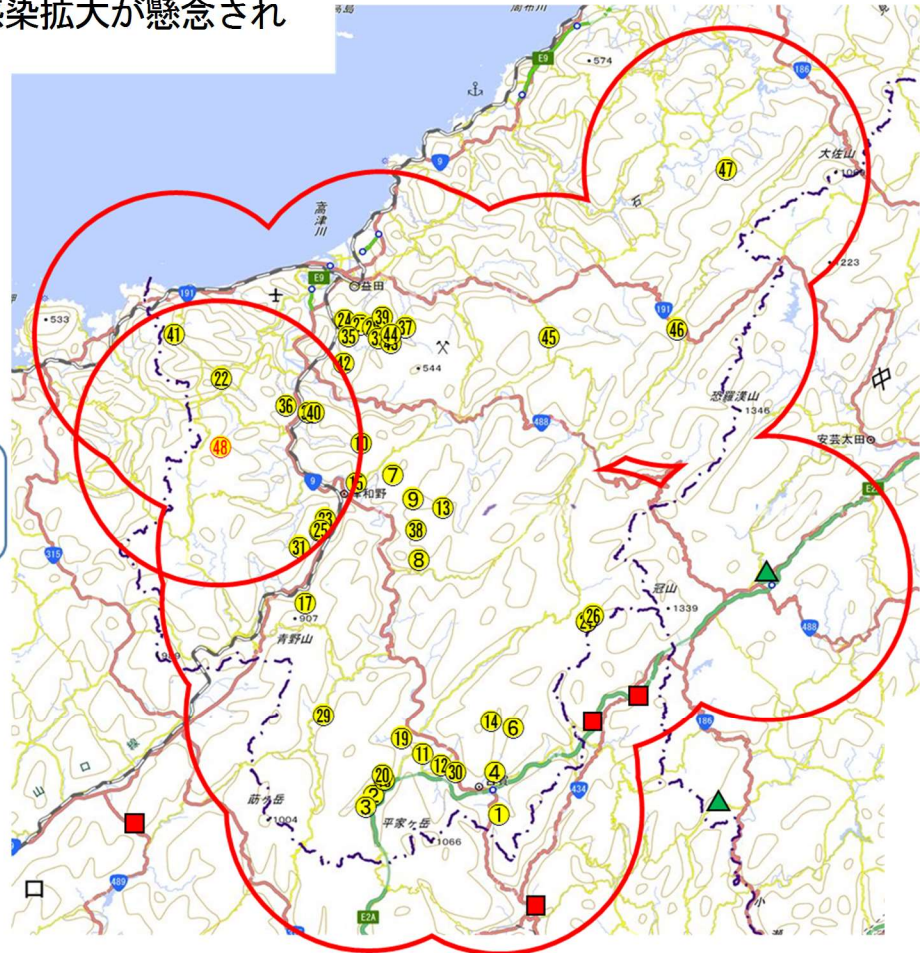
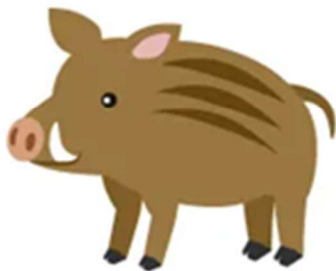
令和4年5月19日、吉賀町で発見された野生死亡イノシシから、島根県内初の豚熱感染が確認されて以降、野生イノシシでの豚熱感染が拡大しており、令和5年2月21日現在、48例の感染が確認されています。県内47例目は浜田市で初の陽性確認事例となっており、今後県東部への感染拡大が懸念されます。

回収地点を中心とした「半径10kmの感染確認区域」

※区域境界を示している発生事例の外縁のみ表示

■ 山口県内における野生イノシシ豚熱確認地点

▲ 広島県内における野生イノシシ豚熱確認地点



飼養衛生管理基準の巡回を行います

飼養衛生管理基準の遵守状況の確認のため、繁殖巡回に併せて管内の牛飼養農家全戸について巡回させていただきます。飼養衛生管理基準の遵守については、日ごろからご注意いただいているところとは思いますが、

- ①衛生管理区域の入り口に看板を設置しているか、
 - ②消毒槽を設置しているか、
 - ③カレンダー等で来場者を記録してあるか、
- の3点について改めてご確認ください。

また、飼養している家畜の種類・頭数などを毎年1回、定期報告書にて報告していただくことになっております。こちらも巡回の際に確認いたしますので、現在の飼養状況について、あらかじめ整理いただきますようお願いいたします。例年、メインで飼養されている家畜以外（めん羊、山洋、少羽数の鶏など）の報告漏れがありますので、こちらについても漏れの無いようご注意ください。

繁殖巡回の対象ではない農家の皆様については、別途ご連絡を差し上げますので、ご対応いただきますようお願いいたします。

牛の繁殖コラム（第3回）

今回は、ホルモンの薬品としての利用についてご紹介したいと思います。外部から薬品としてホルモンを投与することで、繁殖周期の制御や、繁殖障害の治療が可能になります。

< GnRH > 薬品名：コンセラル等

脳から分泌され、多量に分泌されたときには排卵を引き起こすホルモンです。

外部からこのホルモンを注射することにより、黄体の有無や発情の状態に関わらず、一定以上の大きさの卵胞を強制的に排卵させることが可能です。これにより、安定して適切なタイミングに授精することができます。ただし、より良い状態の卵胞を排卵させるため、他の薬品と組み合わせて利用するのが一般的です。

また、排卵しないまま卵胞が過剰に大きくなる卵胞嚢腫の治療などにも用いられます。

< E₂ (エストロジェン) > 薬品名：エストラジオール等

卵胞から分泌され、成熟した卵胞から多量に分泌されることで発情を引き起こすホルモンです。これによってGnRHが多量に分泌され、排卵に至ります。

薬品としての利用は基本的にはGnRHと同様の排卵誘起ですが、GnRHを直接投与した場合と比べ発情行動が起こること、排卵までの時間は少し伸びることが特徴です。

また、高濃度のP₄がある状態でE₂を投与すると、その時点で発育していた卵胞が消失します。これを利用し、採卵などに向けてより良い状態の卵胞を発育させる手法もあります。

< P₄ (プロジェステロン) > 薬品名：シダー (CIDR)、イージーブリード等

黄体から分泌される、発情を抑制し妊娠を維持するためのホルモンです。

薬品としてはいわゆるトンボ（写真）に染み込ませたものを利用する 경우가多く、これを牛の膣内に入れておくことでP₄を持続的に放出させます。これにより、授精後初期の妊娠維持の補助や、黄体のない卵巣静止の牛に対して疑似的に黄体が存在する状態を作り、ホルモンの分泌を正常化させていくといった効果が得られます。



< PGF₂α (プロスタグランジンF₂α) > 薬品名：プロナルゴン等

単にPGとも呼ばれます。子宮から分泌され、黄体の退行を引き起こすホルモンです。薬品として投与することで、任意のタイミングで黄体を退行させることが可能です。投与後は排卵に向かっていくこととなりますが、投与時点での卵胞の発育具合によって排卵のタイミングがばらつくため、投与後の発情観察は重要です。また、排卵後一週間程度までの発育途中の黄体に対しては効果がないので、投与する際には黄体の状態の確認も大切です。

また、黄体を退行させるということは妊娠維持を終わらせるということでもあるため、分娩予定日を大きく過ぎた牛などに投与することで強制的に分娩させることが可能です。

妊娠中の牛に誤って投与した場合流産を引き起こすこととなりますが、胎内で既に胎子が死亡しており、人為的に流産させたい場合などにも利用されます。

繁殖巡回の際にも、繁殖障害のある牛や発情周期の分からない牛などに対してこれらのホルモン剤を投与し、より早く受胎するように取り組んでいます。

しかし、薬品はあくまで補助であり、繁殖障害を起こさないような栄養管理や、確実な発情発見が繁殖管理においては最も重要です。

ひとまず広報に載せるコラムとしては今回で最終回となりますが、この他にも分からないことや気になることがあれば、巡回の際などにお気軽にご相談ください。ありがとうございました。

R4 年度島根県畜産関係機関業績発表会

令和5年1月26日に島根県職員会館多目的ホールにて、令和4年度島根県畜産関係機関業績発表会が開催されました。当発表会は、県の畜産機関が行っている取り組みや研究の成果について発表・討議を行う場で、当部からは3名が発表しました。その中から、永海獣医師が、昨年5月に吉賀町で確認された野生イノシシの豚熱感染を受け実施された野生イノシシ豚熱ワクチン散布について「野生イノシシ豚熱経口ワクチン散布演習の概要と課題」と題し発表し、中国・四国ブロック家畜保健衛生業績発表会の発表演題に選出されました。中国・四国ブロックも頑張ってください！！



〈左から伊藤、永海、門脇〉

発表者	演題
永海航	「野生イノシシ豚熱経口ワクチン散布演習の概要と課題」
門脇拓馬	「管内における野生イノシシ豚熱感染事例」
伊藤寛人	「黒毛和種育成牛に発生した小脳皮質変性症の1例」

R5 年度の5条検査（ヨーネ病検査）のお知らせ

ヨーネ病の清浄性を確認するため、家畜伝染病予防法第5条に基づき5年に1回以上の検査を実施しています。令和5年度の益田家保管内の検査対象地区は、『**津和野町**』になります。具体的なスケジュールに関しては、新年度になってから農家の皆様及び関係機関にはお知らせしますので、ご協力をよろしくお願ひします。なお、検査費用は1頭につき800円になります。ご不明な点がございましたら、当所までお問い合わせください。

実施年度	検査対象地区
令和5年度（2023年度）	津和野町
令和6年度（2024年度）	吉賀町
令和7年度（2025年度）	益田市【乳用牛】
令和8年度（2026年度）	益田市【肉用繁殖牛】
令和9年度（2027年度）	益田市（美都・匹見・種地区）【肉用繁殖牛】

編集後記：今年度最後の広報となりました。今年度は例年より多く年6回の広報の発行でしたが、いかがだったでしょうか？その他にも意見等あればいつでもお待ちしております。来年度もよろしくお願ひします。（門脇）